

サーサナ

第35号 仏暦2559（西暦2016）年6月2日

信じる者は救われるのか（1）

何ごとのおわしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる

これは中世の歌人である西行法師が伊勢神宮に参った時の歌です。（この神社のご神体がどういうものかは分からないけれども、なんとなくありがたい気持ちになって涙がこぼれる）・・・この歌は日本人の宗教観を典型的に表していると言われています。私たち日本人には、このような宗教感情を尊ぶ傾向があります。しかしわけがわからないものをありがたがる、というのはむしろ困ったことではないのでしょうか。西行は仏教僧でもありましたが、この心情は仏教的とはいえません。

「イワシの頭も信心から」といいますが、こういう信仰のあり方は、傍から見ればむしろ滑稽です。滑稽どころか、健全な精神を破壊し、極端な場合は殺人にまで及びます。これがいわゆる「宗教」（盲信）の怖さです。

釈尊は、「信仰を捨てよ」とおっしゃっています。ここでいう「信仰」とは、上に述べたような盲信的なあり方をいいます。

釈尊は知的な理解を大切にされました。疑問をもつことはいいことだ、何かを信じるからには、「何を」「どのように」「なぜ」をはっきりさせねばならない、というのです。

「カラム・スッタ」というお経があります。このお経は、釈尊がカラムという一族の人々に、次のように語り始めることからです。「この世には数多くの『教え』を説く者があり、それぞれが我が教えこそ真理である、我が奉じる説こそ真実であると主張して譲らず、また他の説を虚妄であるとして批難する者がある。けれども、それを聞く者としては、その多様性とそれぞれ矛盾する思想内容によって判断に窮し、むしろそれらすべてへの疑惑と不審とを増すばかりである。そこで、それらが果たして真理であるのかどうか、そのいずれが真実であるかをどのように判断するべきか。」

みなさんはどう思われるでしょうか？ 次回、その判断の基準として示された十箇条について書きたいと思います。（続く）

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます。

六月 帰敬式（おかみそり）

- ❖日時 6月28日（火）午前11時～正午
- ❖受式費用 20,000円（うち10,000円は本山礼金）
費用は28日当日お納めください
- ❖受式希望の方へ
6月13日（月）までに仮申込をしてください。（電話、メールなどで可）
必ず事前説明会に参加してください。6月14日（火）午後1時から3時です。
事前説明会后に、正式申込書に記入していただきます。
- ❖記念品を用意いたします。
- ❖法名に希望の文字があれば、御相談に応じます。

八月 盂蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

もともとは、釈尊の弟子の目連尊者が、餓鬼道に堕ちた母を救うために、安居（集中講義）の終わる7月15日に、大勢の出家僧侶に飲食物の供養を行なったことに由来する行事です。

- ❖日時 8月13日（土）午前8時～9時
- ❖内容 勤行（和訳阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話（住職）
- ❖持ち物 勤行本（『抄訳佛説阿弥陀経』『正信偈同朋奉讃』）
- ❖記念施本 西村恵信『正しいことば』（仏教伝道教会）

盂蘭盆会について個別（家族単位）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。

1. 本堂でのお勤め
8月14日午前8時より正午まで、15分刻みで御希望の時間を指定していただきます。先着順です。十六家族様まで。
2. 自宅の御内仏前でのお勤め
(1)13日午後、(2)13日夜、(3)14日午後、(4)14日夜、(5)15日午後、のいずれかの時間枠をご指定下さい。午後とは1時から4時まで、夜とは5時から8時までをいいます。これ以外の日時は応相談。

清掃・おみがき奉仕

皆様方のご奉仕をお願いしております。終了後はお茶とお菓子でおくつろぎ下さい。

❖6月13日（月）午前8時～9時 境内草取り（雨天中止）

ユニセフ募金

3月11日、皆様からお預かりした浄財3,924円を公益財団法人・日本ユニセフ協会へ振り込みました。累計では233,571円になりました。ありがとうございました。

御遠忌記念品

「名古屋教区・名古屋別院 宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要」は皆様のおかげをいただき、5月1日に御満座円成いたしました。

御懇志をいただいた御門徒さまへの記念品（散華）は当寺にてお預かりしております。まだお受け取りになっていない方は、行事参拝あるいはお立ち寄りのおりなどにお申し付け下さい。（年内いっぱいまで）

ご法事（自宅）の段取り

お参りの人数もごく内輪だけ、というケースも増えてきましたが、たとえ小規模であっても、それなりの準備を心がけましょう。

- ❖日時の決定にあたっては、まず当寺に希望をお伝え下さい。予約が完了した後、親戚などに連絡・招待をします。
- ❖勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意します。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖招待する側（ご法事の主催者）を施主といいます。施主は上座ではなく下座に座ります。焼香もいちばん最後になります。
- ❖蠟燭の点火・線香・焼香の用意は施主が行なって下さい。香炉炭の点火は開始10分前くらいを目安に。
- ❖僧侶が袈裟衣を着替えるためのスペースを確保しておいて下さい。また駐車場の確保もお願いします。
- ❖供物は随意ですが御仏供（おぶく）は必ず。陰膳はいたしません。
- ❖その他不明のことはお気軽にお尋ね下さい。

お坊さんが「ニョーゼーガーモン、イチジーブツ」と読んでいる声だけを聞いていると、お経には訳のわからないことが書かれているように思うかもしれません。しかし、お経には迷い苦しみを越えていく釈尊の教えが説かれています。いわば釈尊からのメッセージが詰まっているのです。ですから、お経を読むということは、本来は釈尊の教えに出遇うことなのです。

ところが、私たちは自分が迷いの人生を送っているとは、日ごろ思っておりません。そのため、自分がお経に出遇う必要があるとは感じておらず、他人事のように考えています。亡くなった人にお経を読んであげないといけないというの、そのあらわれです。亡くなった人にお経を聞いているかどうかを、確かめたことがないにもかかわらずです。

ましてや、お経をお坊さんだけに読ませて、自分は聞くこともなく済ませているのであれば、それは亡くなった人を大事にしているのではありません。単に自分がすっきりしたいだけの気やすめにすぎません。お経はどこまでも、私たちに対する呼びかけであるというのが大事な点です。

たとえば、親鸞聖人が真実の教と仰いだ『大無量寿経』には、次のような言葉があります。



「吉凶禍福（きつきょうかふく）、競（きそ）いておのおの之（これ）を作（な）す。一（ひとり）も怪しむものなきなり。」

これは、吉凶や禍福にとらわれている人間の姿を教えようとする釈尊の言葉です。自分に都合の良いことばかりを追い求め、お互いに競い合い、しかも自分のしていることを正しいと信じ込んで怪しむこともない生き方が見据えられています。

日ごろは疑ったこともない自分の生き方を見つめ直すこと、これがお経との出遇いによって始まるのです。この意味で、お経は私たちの生き方を照らし出すものだといえます。

一楽 真 大谷大学教授

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弼（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 FAX：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
